

## 第1回「こども条例(仮)」を考える市民ワークショップ

【日時】 令和5年11月9日(木) 午後19時00分～20時40分

【場所】 市役所地下 市民ホール

【出席】 29名  
市民23名(うち3名Zoom)、事務局6名

### 【概要】

令和6年度「こども基本法」に基づく市の「こども計画」の策定を予定するなか、その前段階(前提)として市議会から政策提言も受けた「こども条例(仮)」の整備に向けた検討があるべきと考えたもの。

約1年間をかけ、市民の参画や関与を得て、より良い取組み内容とするよう、誰でも参加できる市民ワークショップとして第1回目を開催した。(毎月1回程度開催を予定)

### 【詳細】

#### 1. 開会あいさつ(子育て支援課長)

現在は大きな「分岐点」で、今の取組みが市の将来を大きく変える。

強い追い風も吹いていて、市のポテンシャルからは好転する、ピンチをチャンスとできる可能性も高い。

まちに関わる様々な人が集まり、目指すゴールを共有し、互いを知り、強みを活かすチームワークを大事に、ともに歩みを進めたく、この会がそのような場となるよう進めていきたい。

#### 2. 自己紹介(氏名、所属団体など)

#### 3. 資料説明(子育て支援課長)～意見交換

テーマ「こどもの権利条約」

アメリカ(Zoom3名含む)、デンマーク、イタリア、フランスの4つのグループに分かれて座り、資料に基づき説明後、10分程度「意見シート」を各自で記入、グループ内で順に意見を出し合った。

①今日のテーマについて

②市の「こども条例(仮)」への願いについて

③ワークショップの進め方について

最後、グループ毎にどのような話が出たか、全体で共有して終了した。

次回第2回は、12月19日(火)同時刻、同会場で「こども基本法」をテーマに開催予定

意見のまとめは別紙のとおり

以上

## I. 今日のテーマについて

## &lt;概ね肯定的意見&gt;

- ・「こどもまんなか社会」を考えていく道の一つには、子どもの権利条約を共通理解していくことはとても大切なことなので、テーマにしてもらえたことは良かったと思う。
- ・権利条約を学ぶことで、少しだけ身近になった。とても大きなテーマだと感じた。
- ・ほとんどの内容が当たり前に行われるべきことだが、改めてよく知ると、守られていないことも沢山あるのだろうと気付かされた。自分の無知さも同時に痛感した。
- ・日頃の活動の中で、この条約のことを取り上げ、分かりやすく話していければと思う。
- ・子どもの権利条約について、自分自身も名前を聞いたことはあるが、内容まではしっかりと把握していなかった。一人の人として尊重され、大切にされるべき存在なのだ改めて考えさせられた。
- ・よくぞ「こども条例」に想いを寄せ、行動を起こしてくれたと思います。
- ・子どもの権利と親の役割、国の役割に分かれているのが印象に残り、親としての責任をしっかりと果たせるようにしたいと思った。
- ・子どもの権利についての一つひとつの文言を聞きながら、権利を守るために何ができるのか？今の立場や仕事についての取組みの第一歩として、周囲に知らせていくことが、まずはできると感じた。その後の意識改革として、具体的に何ができるのか考えていくきっかけとする。
- ・子どもの権利条約は、本来は守られていなければならない内容だが、出来そうで出来ていないことが多くあることに気付かされた。ただし、実際に子育てをしようと思うように行かないことも多々あり、声を出せず、壁にぶつかり、一人で抱え込んで悩んでしまうようなことがある。
- ・子どもの権利条約について、初めて知ることができて良かったです。沢山の条項があると知り、私たち大人が意識していくことの大切さを感じました。

## &lt;概ね子どもに関する意見&gt;

- ・「子どもの権利条約」の内容は、子ども自身が理解し、行使していけるようにしたいと思いました。
- ・子どもたちに知られていくようなものになってほしい。
- ・自由や多様性が強く主張される時代になり、大切にしながらも、他の人の権利、危険にさらしてはいけないといったことは、大人、子どもともにしっかりと知らせていかなければならないと思う。
- ・子どもにも自分の意見を自由に表現する権利があるという部分について、大人はどうしても忙しいと子どもの声を聞けずに終わっているかもしれないので、耳を傾けることを大切にしたい。
- ・子どもを一人の人間として向き合う必要がある。(特に小さい頃は、自分の意思を押付けがち)

## &lt;感想や疑問など&gt;

- ・「子どもの幸せ」「子ども時代の幸せ」はどうすれば守っていけるのか。大人になってしまうと、親になってある意味で「力」を持つと、忘れてしまうような気がします。
- ・正しい情報が入るように気を付けていく必要があると反省しました。(情報過多)
- ・高山市が「子供」ではなく、「子ども」「こども」と表記するその想いを伺って、「子育て日本一」「子どもにとって住みやすく健全に育つ自治体」ということを実感しています。
- ・子どもの権利条約を伺って、すぐさま今、支援している様々な家庭が頭に浮かびました。ヤングケアラー、虐待、ネグレクトなど必要な手を打ちたくても法の整備や制度が遅れていて、手助けできないケースが多々あるため、「こども条例」にしっかりと反映できたらと思います。
- ・自分の子ども時代にできた「子どもの権利条約」だが、今日までその詳細に触れることがなかった事に驚いた。
- ・23条「障がいのある子どもの権利」で、障がい児もできるだけよい生活を送る権利と、特別に

扱われることが前提として書かれているのが気になる。

- ・一つひとつ熟読していくと、果たして子どもたちの権利は守られている世の中だろうか？という疑問を感じた。
- ・「こどもまんなか社会」の実現とあるが、今までは誰が「まんなか」に居たのか？その人はどくのか？「こどもがまんなか」である必要性はあるのか、この高山市で本当に実現できるのか？
- ・多様化に対応できるものが良いのでは？
- ・子どもの権利条約が認知されていないことと、批准から30年経って、ようやく日本では法整備がなされた。子どもの権利が守られていないことの表れでしかないのでは？
- ・実際に子どもと関わるなかで、学校、生活、家庭環境など、子どもの権利条約に掲げられているような権利が守られていないと感じる。すばらしい内容の権利条約でも、実際に生きたものでなければ意味がないし、単に子どもには絶望やあきらめを生む種にもなり得ると感じる。

#### <方法論的な意見>

- ・誰とでも話しやすい環境づくりが必要である。
- ・市の幹部、教育委員会をはじめ、すべての部署で考えていってもらいたい。
- ・子どもたちのなかで学校に行けない子どもたちの読み書き、知識を身に付けられるようなサポートをしていきたい。
- ・大人が見本となる必要がある。
- ・子どもの権利条約をまずは現在の自分の生活や地域社会に関わる部分から落とし込んで、子どもは？親は？大人は？どう捉えるかディスカッションして、考えたり、深めたいと思った。
- ・子どもの権利のいくつかから、まずは一つを取上げ、自分の実践としてできることを考えていきたい。
- ・子どもたちも知っておいた方が良くと思うため、少し短く、子どもも読めるようにまとめた「子どもバージョン」もあると良いかも。
- ・1995年発行の子どもにとって分かりやすくまとめられた「子どもによる子どもの権利条約」小口尚子・福岡鮎美著を皆に紹介したいです。
- ・資料が長すぎる。
- ・資料のボリュームがあり、説明が長かったので、もっと分かりやすいものがあると良い。

## 2. 市の「こども条例(仮)」への願いについて

### <主に子どものこと>

- ・子どもが生き生きとした生活、成長ができるようにしていきたい。
- ・「僕たちの話をよくきいて」という子どもの声を大切にしてほしい。
- ・困ったなど思っている子どもたちに、あなたを見ているよ、守っていくよと伝えられる条例になると良いと思います。
- ・子どもを含めて一緒に考えていきたい。
- ・「子どもにとってどうなのか」子どもを主体に考えられると良い。
- ・子どもは物を言えない部分がある。親(大人)が導いていくにしても、子どものことをまず第一に考えたものにする必要がある。
- ・こどもまんなかを考えること
- ・様々な背景や理由はもちろん頭に置きつつも、保護者のため、大人の都合ではない、子どものための条例になってほしい。
- ・多様化する現代の子どもたち、それぞれに対応した内容であることを大切にしたい。
- ・学習障がいのある子どもたちに対し、子どもが勉強をしたい、楽しい、と思えるようにシフトしていくべきと考える。
- ・学校に行けていない不登校の子どもたちにも、平等に学ぶチャンスを与えられるような条例があ

ると嬉しいです。

#### <主に親や大人のこと>

- ・「条例」は難しいものというイメージがあるが、子どもが守られることなどを市民が知ると良いと思った。
- ・子どもや若い人より、年配の人たちに知ってもらえるには、どうしたら良いかと思った。
- ・一つの視点だけでなくあらゆる視点（世代、立場など）を盛り込んでいく。
- ・意見を言えない年齢のこどももあるため、大人が子どもの代弁者となることも重要となる。
- ・子どもが心身ともに健やかに過ごせるために、まず親が育児について知る機会を作ってほしい。
- ・この条例で守られる子どもたちに広く知られることが重要、知る機会を積極的に作るべきと感じた。また周りの大人が知り、他人の子どもにも互いに目を配れたら良いと思う。

#### <主に内容のこと>

- ・昭和の時代に作られた子どものための様々な法律が、今、様々な環境の変化により、大きく変えていかなくてはならない時期にきていると思います。ぜひ、こども条例では、法の網では救い切れない、守り切れない子ども達へも手をさしのべ、「誰ひとり取り残されない子育て支援環境」「子どもが笑顔でスクスクと育つ高山市」を作っていく、原動力となって欲しいです。
- ・守られるべき子どもの声、気付けるかどうかのサポートが重要となる。
- ・子どもが入院した際、病院から保護者の付添いを求められ、約1週間病院に居なければならず、服役しているような感覚を味わった。
- ・子どもの未来を一緒に見つめ、自立できるための力を育む内容にすることが大切である。
- ・声にできない年の子どもの気持ちを代弁してあげる立場の人が必要である。
- ・大人だけ、子どもだけが「まんなか」にならないように心がけたい。
- ・権利条約からこども基本法、こども大綱、市の条例（計画）の流れは本当に素晴らしいと思う。半面、説明にあった、今の分かれ道を間違えたらと思うと不安がある。時間がないなか、プロセスが見えず、一度決まったものがなかなか変わらないなかで、「本当に良いもの」になるのか非常に不安になる。
- ・命からのスタート、命が輝くためになど目的を考えたいうえでスタートできれば良い。
- ・高山の土地柄を大切にしたいもの、また都会にも劣ることのないもの（将来に向けて活かせるもの）としたい。

#### <分かり易さをもとめること>

- ・分かりやすい内容（文章）になると良いと思う。
- ・多くの市民に認知され、実践して（守って）もらうには、分かりやすい文章にまとめる必要がある。基本的なところは押さえつつ、高山市に合った、POPで分かりやすい条例にする必要がある。（全文はインターネットや紙媒体で確認できる。）
- ・「誰にも分かりやすい」条例づくりが必要と感じる。
- ・子どもでも分かるような、短くて読みやすい絵本のような見せ方もできると良い。
- ・子育てに悩んでいても、何かきっかけがあれば良いループになることもあるので、親と子どもで向き合うためにも、誰にも分かりやすい市の「こども条例」が本当に必要なんだと感じた。

#### <主に進め方のこと>

- ・すべての機関が関連すると考えるので、様々な関係機関が一緒になってつくる必要がある。
- ・意見を集めるときに偏らず、自分達には関係のないことだとならないように、皆で作ることが大切である。人生の先輩である高齢者の意見も取り入れてもらいたい。
- ・2019年のアンケートを高山市でも条例ができた際には是非とってみてほしい。

- ・「こども条例」を作るうえでの目的、成果、ミッションは何なのか？
- ・はじめに条例を作る目的を知り、共有したい。子どもの幸せのため、子どもが生き生きと育つためを目的とし、周りが決める幸せではなく、それぞれの子ども自身が感じる幸せが守られるような内容となることを願う。
- ・条例を作ったから終わりではなく、作ったところからがスタートである。

### 3. ワークショップの進め方について

#### <多くの意見を集めるべき>

- ・声をあげられない人、このような場所へは来にくい人の意見を、どのようにくみ取っていくかが大切となる。(例えば、老人会やまちづくり協議会など)
- ・放課後デイサービスなどの事業所のスタッフや利用者、つどいの広場のコーディネーターや利用者、交通安全指導をしている方など、様々に子どもに関わる人の意見を集められると良い。
- ・高校生、年配の方々など老若男女も参加し、意見を聞けると良い。
- ・親子で参加できるとよいが、自分の親の前では子どもは意見を言いにくいので、別のグループにするなど配慮すると良いのでは。
- ・積極的には意見を言いにくいこどもの意見も拾えると良い。

#### <意見交換を長く、深くしたい>

- ・説明部分が長いと意見交換が短くなるので、事前学習して臨みたい。
- ・学習会といっても司会の方が話すだけなので、事前に読んできてもらうことを宿題にすれば良いと思う。
- ・ディスカッションの時間が短くてアンケートのような回答になっていた。せつかく時間を作って来ているので、意見を交わしたい。
- ・こども家庭庁、セーブザチルドレンが動画を作っているの、それを流すのもあり。
- ・先に資料をメールでもらい、それぞれ読んできた上で、会場では深めたいテーマのグループに分かれてディスカッションするのはどうか。(次回は「こども基本法」であれば、どの項目が深めたいかのグループ毎)

#### <テーマ>

- ・テーマ等は、市から打ち出されたものだけではなく、子ども、関わる大人からアンケートで多いものをテーマにしてもらいたい。市として、どう感じ、どのような方向に進むべきと感じたのか、フィードバックをお願いしたい。
- ・テーマが大き過ぎて対話しにくい。

#### <その他>

- ・第1回なので特にありません。欲を言えば、席が決まっているとありがたいです。知っている人だらけで、色々な人と交流したい、でもこの人の話も聞きたいなどとすごく迷いました。
- ・子ども達の声の直接聞く場に居合わせたいです。
- ・一回目でテーマは「～を学ぼう」だったので、このような組立てになったのかと感じました。
- ・ワークショップにおけるルールは必要である。
- ・まずはしっかりと学ぶことが大切だと思う。子どもに知らせるために大人がしっかりと理解できるように広く市民に伝わるようにすべき。
- ・今後、様々な資料が沢山出てくると思うが、内容が幅広くなるので、ポイントを絞って取組めることから進められると良いと思う。
- ・子育て中の保護者は参加しにくい時間帯の開催のため、それぞれの職場や活動の中で日頃聞いているような保護者の意見を吸い上げて、こういった場で共有することも大事ではないか。